

## ◆ 妊婦支援や虐待防止策学ぶ

「子育ての応援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して」と題したフォーラム（日本医師会、県医師会など主催、山陽新聞社後援）が19日、岡山市内であり、約200人が妊婦支援や虐待防止策などを学んだ＝写真。

医師ら5人が登壇。岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授は、虐待など産後の子



育てに不安のある「ハイリスク妊婦」にしないために「思春期から産後まで切れ目のない支援が重要」と訴えた。

就実短大幼児教育学科の笹倉千佳弘教授は、妊婦健診の未受診妊産婦について「自分や胎児を大切にしない傾向が強く、傍らで寄り添う他者が不可欠」と指摘。岡山大病院小児科の岡田あゆみ助教は「子育てに悩む親の孤立を防ぐため、相談してよかったと思える体験が必要」と述べた。